伯剌西爾時報
住所 伯剌西爾聖巴羅
電話 〇七六四・七
作者 石黑 M Sameshima
社長 Director
購讀料 一ヶ年 六十圓 半ヶ年 三十圓
廣告料 大廣告 御問合は社員に

珈琲 サントス四級 十キロ 一八、八〇〇 リヲ七級 一二、四〇〇

替爲 對日 郵星送金 四、六七〇 五、六七〇 對米 郵 一九、七七〇 對英 八〇、〇五〇

ル大統領聲明と帝國への反響

我封鎖線破り 重慶援助の曉 皇軍斷乎之を擊滅せん

（東京八日同盟）米大統領教書に對する東日社説要旨（八日）ルーズベルト大統領が六日議會に臨んで朗讀した教書の重點は羅斯福ホワイトハウスから放送した「爐邊閑談」と殆ど同一であつて、本質的には全く新鮮味を欠いてゐる、だが僅十日の間に二回に亘つて強調されたルーズベルト政府の驚くべき挑戦的な外交方針を前にして、世界を一層混亂せしむる爲めに最大の努力を拂はふとしてゐる、米國の當政者達の止まる處を知らぬ猛進振りを我々は米國の爲に更に世界平和の爲に悲しまざるを得ないのである、今回の教書に於てルーズベルト大統領は、改めて米國が「民主々義諸國と米國自身の爲めに兵器廠とならねばならぬ」と說き、それが爲に數十億弗の豫算計上を議會に要請してゐる、ルーズベルト政府の狂信的な對英援助は、先に米國をして「戰爭製造者」の責任を取らしめるばかりで無く米國自體を遂に戰爭の渦中に卷き込まざるには置かぬであらう、若し夫れ我が封鎖線を破つて米國が重慶政府に武器其の他を供給しようとするならば、皇軍は斯る不逞の絆を擊碎するのに聊か躊躇しないであらう、また米國の對英援助機構を我々の置邪たる獨伊兩國が便々として看過する事も久斷じてあるまい

東社 日説

國防の爲には 私設工場も徵用する

米に國防生産管理局設置

【ワシントン七日同盟】米政府は舊臘二十日「國防生産管理局」の設置を決定、國防計畫と對英武器援助の強化を企圖したが、ルーズベルト大統領は七日、同局設置に關する大統領令を公布した、右大統領令に規定された國防生産管理局の管掌事項の要點は次の通りである

一、國防上必要なる機材製備などに就き、陸海兩省其他各省及び諸外國政府それ〴〵の要求を調製する爲の調査を行ふ

一、軍需關係諸契約の供與を調整する

一、國防計畫の爲に必需原料の充分な供給と生産施設の整備を保證するに必要な措置を立案し、これを遂行するに必要な活動をなす

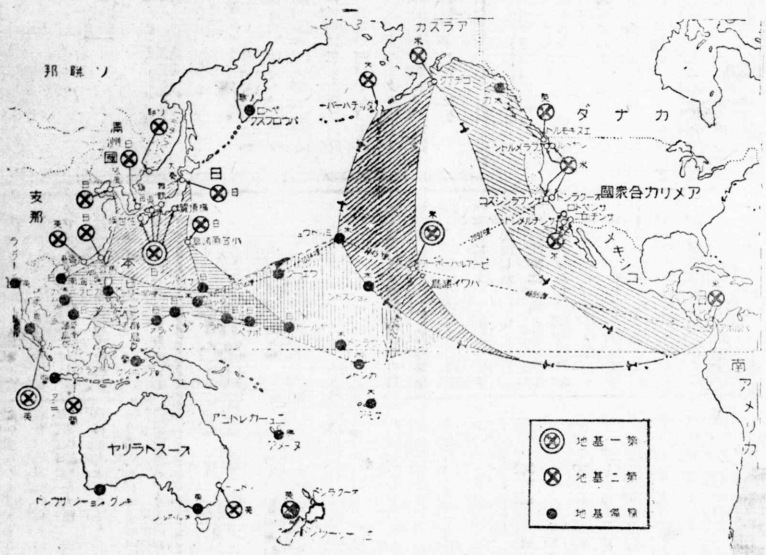
一、國防計畫遂行に必要なる場合は、私設工場を徵用する

駐泰佛公使にガレーを正式認め

【バンコック八日同盟】駐泰フランス公使レビシエの後任として、去る十一月下旬着任したガレーに對し泰國政府は、ヴイシー政府の正式外交代表として認めず、爾來一ケ月余に亘つて同氏の資格問題に關し紛議を續けてゐたが、泰國政府は六日遂にガレーを正式フランス代理公使として認めるに至つた

陸軍始め觀兵式降雨のため御取止め

【東京八日同盟】軍隊第五年の新春を寿ぎ帝國陸軍の威武を中外に宣揚する恒例の陸軍始め觀兵式は、八日大元帥陛下の親臨を仰ぎ奉り、代々木練兵場に於て擧行される事になつてゐたが、東京地方は七日に引續き八日も朝來雨で式場代々木練兵場も泥濘となつた爲め、本年度の陸軍始め觀兵式は御取止め遊ばされる事になり、陸軍省より此の旨、發表された


カスラア
ダナカ
ソ聯邦
滿洲國
日本
支那
ハバロフスク
ウラジオストク
ハルビン
ハノイ
ラングーン
シンガポール
ジャカルタ
ポンペイ
カルカッタ
ボンベイ
カラチ
ヤルラトスース
ドンガ
ノーム
ウラジオストク
ニューヨーク
ワシントン
ボストン
シカゴ
サンフランシスコ
ロスアンゼルス
ホノルル
ハワイ諸島
ミッドウェー
ウェーク
グアム
マニラ
香港
上海
重慶
アンドレカーニ
ジャマイカ
ベラクルス
ハバナ
メキシコ
南アメリカ
アルゼンチン
ブエノスアイレス
ブラジル
ボリビア
ペルー
チリー
ボゴタ
ベネズエラ
カラカス
ジャマイカ
ハバナ
ベラクルス
ニューヨーク
ボストン
ワシント

各界の代表者を網羅
四日間に亘る官民懇談會
年改り皇國の内外情勢逼迫

【東京八日同盟】政府は第七十六議會の再開を前にして國内體制の整備強化を圖り、官民擧國一體、時艱克服に邁進すべく、來る十四日より十七日まで四日間に亘り、首相官邸に貴衆兩院、財界、言論界の各代表者の參集を求め、近衛首相以下各閣員出席、現下の國際情勢、國内事情並に昭和十六年度輸出入計畫の内容等に就き詳細説明、時局打開に關する政府の所信を率直且つ具體的に披瀝して國民各層の眞摯なる協力を要請する事となつた、右に關し政府は八日、左の如き情報局總裁談を發表した

情報局總裁談

現時我國内外の情勢は、本年度に於いて愈々重大を加へるものと思考せらるゝも、この際これを突破し、國運の一大躍進を期せんが爲には、國民全般一致の協力を必要とする事、言ふを俟たず、就ては政府に於ても貴衆兩院並に各方面有識者の參集を求め、來る十四、十五、十六、十七の四日間に亘り、近衛總理、陸、海兩相より親しく國際情勢並に國内事情に關する眞相等を説明し、之に對する政府の所信を述べ、種々懇談を爲すことゝせり

隔意なき意見交換
官民一體の實擧げん
政府側の準備着々進む

【東京八日同盟】政府は那辺の辺から來る十四日より四日間に亘り官民懇談會を開催し、擧國體制の強化に努める事になり、目下參集を求むべき貴衆兩院、財界、言論界の國民各界有識代表者の登録、人選並びに日程の作成等諸般の準備を進めてゐるが、大體一日ごゝ各界別に參集を求め、關係事項に就き所管大臣より詳細説明、民間側代表の質疑要望等に對しても現下の國情を率直に述べて、官民隔意なき意見の交換を行ふ筈である

各界代表百五十名
懇談の順序も決る

【東京八日同盟】來る十四日より開かれる政府民間懇談會は十四日衆議院代表、十五日貴族院代表、十六日言論界代表、十七日經濟界代表の順序で行はれる事になつた、然して各界層の代表者はそれぞれ百五十名位宛となる筈である

外相參内

【東京九日同盟】松岡外相は八日午前九時五十分居中に參内、天皇陛下に謁見仰付られ畏近の外交關係に就き奏上、同十一時五十分退下した

樺山資英氏
露領水産組合長を辭す
後任に田中丸裕厚氏

【東京八日同盟】露領水産組合長、樺山資英氏は傳て健康上に一身上の理由に依り辭意を表明、同組合では去る十一月の臨時總會でこれを承認、その後任として現副組合長田中丸裕厚氏を昇格せしむべく農林、外務兩省に認可申請中だつたが、六日付を以て正式認可を得たゝなは田中丸氏の昇格に伴ひ、後任副組合長は當分缺員とする筈

泰、佛印戰況

【ハノイ七日同盟】佛印當局六日發表に依る泰、佛印戰況左の通り

一、泰機は四、五兩日にかけてサバナケット戰線を爆撃したが、これに乗じ佛印機もカラマットを爆撃した

一、泰軍のポワペ攻撃に對し佛印側も泰領アランを爆撃ポワペ北方地區では激戰の後、泰軍を撃破、小銃七を鹵獲した

一、六日朝泰機七機がポワペ北方五十キロシソホンを爆撃、士人四名が負傷、佛印側でも同日朝ヒエーンチヤン南方五十キロの泰軍前線基地ウンドンを空襲した

一、佛印軍は五日泰領アランヤを砲撃、泰軍の砲兵隊破壊所を破壊した

一、バイリン地區の佛印軍はバイリン北部國境より泰領に進攻、泰軍を撃破した

◇　◇　◇

野村大使
東京へ着く

【東京八日同盟】新駐米大使野村吉三郎大將は南鑑以來、新京、北京、南京、上海など滿洲、支那の現地視察を行つてたが、八日午後三時二十五分東京驛着京士署で歸京した

北歐諸國に公使置かず
適時戰亂情勢を視察
松島特命全權公使の使命

歐洲戰爭の擴開に伴ひ北歐諸國に事實上、公使を常駐する必要を認めざるに至つたので八日付スエーデン、ノールウエー、デンマーク國駐剖特命全權公使松島鹿夫氏の在勤を命じ特に同公使に對しては適時歐洲各國を往來し、動亂の情勢を詳さに視察せしむる事になつた

外務辭令

【東京八日同盟】外務辭令（八日）

特命全權公使　松島鹿夫

（外務辭令八日）

千葉氏の略歴

【東京八日同盟】臺灣總督府千葉外事部長は今回、ポルトガル公使に轉出し、その後任は蜂谷副ブルガリア公使を起用するに決し、八日左の如く發令された

臺灣總督府外事部長　千葉秦一

任　特命全權公使ポルトガル國駐剖仰附けらる

特命全權公使　蜂谷輝雄

任　臺灣總督府外事部長

ポルトガル公使に
千葉秦一氏起用さる
臺灣總督府外事部長

【東京八日同盟】ポルトガル駐剖公使に内定した千葉秦一氏は東京市出身、當年四十六才、大正九年東大法科卒業、同年外務省に入り支那、ベルギー、フランス、スイス、イタリー、アメリカ、スペイン各地に在勤し、昭和十四年三月本省亜細亞局第三課長から臺灣總督官房外事部長に轉出今日に至つた

株價の國家的對策機關
戰時證券投資會社生る
十五日頃までに創立總會

【東京八日同盟】株式市場の動揺は益々激烈を加へつゝあつたが、此の機に乗じ銀と大藏、日銀兩當局間に完全なる了解がつき證券投資會社を（假稱）設立する事に内定し、八日最後的決定を遂げる事となつた、新會社は出資株數の半數以上は興銀が所有、他は有力銀行及び信託に所有せしめ、指導權は興銀が把握する、而して新會社はおそくとも來る十五日頃までには創立總會を開催すべく各般の準備を急いでゐるが、現存の日本證券投資會社は當分存續せしめ、又生保證券も當分現機構並びに現投資能力の下に新會社と協力し株價對策に善處せしめ、かくして今後の株價對策は新會社を中心に證券投資及び生保證券を兩翼として遂行される事となつた、即ち株價對策は民間對策から飛躍して國家的對策機關の登場を呼び、愈々重大性を帯び來つた譯であるが新會社は恒久的投資機關として活動せんとするものでその今後の活動は各方面から注目されてゐる

大學生の翼贊委員
廣島支部の變り種

【廣島發】大政翼贊會廣島縣大學部委員十名の顔觸れは去月廿日發表されたが、その中に加藤五才、しかも目下廣島文理大學生として學窓にある變り種がある、屋道市土堂町田坂寧弘氏だ、尾道市内切つての大家主で多額納税者だが、愛市驛盟の大施をめざして市會に乗り出したほどの熱血漢で慶大卒業後二、三年前哲學專攻を志したが、國體明徴の神髄を摑むため今春再出發して文理大國史科に入學したものつまり細長い型の兒童が多いわけだが、一般に健康で日本の兒童より病氣にかゝる事は少い、從つて全體的に見ると一般日本兒童に決して遜色がないことになる

素質には申分なく
顔は支那人似が多い
日支混血兒の研究發表さる

【東京發】日支混血兒は優良か――東京市衛生試驗所石原所長、佐藤技師は東亜共榮圏樹立に當然隨伴する問題として一ヶ年にわたり「日支混血兒童の醫學的研究」を行つてゐたが、その結果を東大醫學部で開催された日本民族榮養學會第九回學術大會で發表した、同調査は

注目されるのは出産率で結婚後五年間に出産する平均は一、六一人（日本人は〇、七人）十年以後の平均は二、四二人（日本人は一、七人）と高率を示し、また產れた子供の觀は支那人に似てゐる方が多い

次に學業では算術を得意とするもの最も多く、ついで唱歌、手工となつてゐるが、圖次にも混血のハンデーキャップは全然見えず、中にはズバ抜けて優良なものがある、なほ男子百〇一名中支那名を名乘るもの四十名、女子九十八名中二十二名で、他は私生兒として日本名を持つてゐるわけ、混血の悩みは兒童の素質より戸籍の方にある

法幣濫發の弊防止
民衆の生活苦救はん
中央儲備銀行業一當り　周佛海總裁語る

【南京六日同盟】六日の中央儲備銀行開業に當り周佛海總裁は、同銀行の性格並びに運營方針に關し、大綱左の如き聲明を發した

一、舊法幣は本來人民財產の寄託であり、政府は還都の際、これが維持に最力し以て人民の利益を保障すべき事を聲明した、然るに車輦側は人民の利益を顧みず亂發を行ひ、爲めに遂價値は日に下落し、物價は日に騰貴し、遂に今日の生活困難を招來した、車輦側法幣の發行額は昨年六月既に四十億元、至六十億元に上り、香港より上海に輸入される銀法幣は、三年來毎年平均四億元前後に上ると聲はれる、依つて影響を防止する爲め特に本行を成立せしめたもので、充分なる現金準備を置き、新貨幣は差當り舊法幣と等價値にて流通せしむるも、若し舊法幣にして相當程度以下に下落せば新貨幣の價値を定め、以て金融並びに人民生活の安定を計らんとするものである

二、本行の現金準備は現在、法定の四割を遙に越過してゐる故に本行兌換券は臨時外貨に替えるは勿論、新法幣を以て舊法幣と兌換し、金融を活潑ならしめんとするものである

三、政府は貨幣價値を維持する爲め、努めて輸出の增加を圖り、以て國際貿易の平衡を保ち、又必要に際しては中日協定中の諒解事項に基き、對外貿易の自主的統制を行ふ一方、香港より上海に流入する舊法幣に對しても相當の制限を加へる方針である

◇ソ聯政府はルーマニヤ駐在公使をモスクワへ召還の命令を發しなかつた由。

◇獨軍は本日を期してブルガリヤへ侵入、ルーマニヤを牛耳したと同じく全國を無血征服するであらうと。

◇伊太利軍は七十哩進軍し伊軍團二個擴增のトブルク町十哩に迫り、戰車隊は附近にある伊空軍根據地を占領、同町の陥落は必至と見られてる。

◇リビヤのバルチアを占領し

◇ルーマニヤ駐在公使をモスクワへ召還の命令

急な場合の爲めゼヒ各御家庭に
配置袋一箇宛御備へ下さい
越中富山　御藥
本舗　富山市堀端町
支店　ブラジル支店　聖榮堂長森
C. POSTAL 4128 - S. PAULO

Dr. Alarico Franco Caiuby
ADVOGADO E
Tsuguo Kishimoto
TRADUTOR PUBLICO
Escritorio: R. José Bonifacio, 233
3.o and. salas 310/312 - Tel. 2-1137
C. P. 1124 São Paulo
法律一般
顧問　譯
アラリコ・フランコ・カユビー
事務所　聖市ジョビ・ボニフアシオ街二三三番
三階三一〇―三一二號室
郵函一一二四　電話二―一一三七
本邦法律事務所
公認顧譯人　岸本永男

防腐劑絶無保證
銘酒　日日乃乃華本
伯剌西爾時報社
内外各地支社所在地
東京支社　鷲谷精一　東京市京橋區槇町二ノ二
リンス支社　中村滿志　Rua Coronel Salgado, 144 C. P. 203 Est. Lins L. Noroeste
アンデルナ支社　茂木源太郎　Rua Ruy Barbosa, 70 C. P. 137 Est. Pres. Prudente L. Sorocabana
マリーリア支社　本多彬　R. Paes Leme 306（川口醫院前）C. P. E. Est. Marilia L. Paulista

身も心も日本人
歸化願ふメンソレータム社主
【滋賀發】滋賀縣蒲生郡八幡町メンソレータム本舗近江兄弟社社主ウイリアム・メーレル・ヴォーリス氏（六〇）は時局にかんがみマッキー夫人（五七）シュリヤ母堂とともに一家をあげて歸化手續中であるが、歸化に先だち從來居住の奉軍は七十哩進軍し伊軍團二個擴增のトブルク町十哩に迫り、戰車隊は附近にある伊空軍根據地を占領、同町の陥落は必至と見られてる。

生徒募集
一、洋裁部
速成科　四ケ月
普通科　八ケ月
研究科　期間を定めず
隨意科（料理、手藝　ブラジル語（初步よりグルツポ四年程度）　日本語（尋常科程度より女學校程度））
一、寄宿舍　本校生徒父は他校に通學する子女を家庭的にお預り致します。
一、洋裁仕立部　男女子供服御仕立物の御注文に應じます。
始業　一月十日　隨時入學
公認　ビニエイロス裁縫學院
校主　高橋善導　高橋達子
主任教師　新工ツヤ子
Rua Pedroso de Moraes, 645 Liberdade S. Paulo
今般ビネイロス裁縫學院の經營一切を高橋善導氏御夫妻に御譲りいたし候當校經營中は種々御援助頂き有難く御禮申上候
尚ほ後共よろしく御交誼を賜り度く願上候
昭和十六年一月八日
現住所　Rua Antonio de Macedo, 238 Penha - São Paulo
武田すま
今般ビネイロス裁縫學院をお引受け致す事になりました何卒御同樣宜敷お願ひ申上げます。
昭和十六年一月八日
高橋善導　高橋達子
移轉先　Rua Pedroso de Moraes, 645 Liberdade - São Paulo

故川崎稔の死因に關し某々新聞紙上に記事掲載されたるに對し各位より御親切なる御問合せの書面に接し厚く御禮申上候

御仰せの通り故人の性格として又當時の狀況よりして絶對に忌はしき死因にあらざる事を確信致したればこゝ臨床醫（ア・サンパウロ保險會社囑託醫）の疑惑を受けたる際進んで警察醫の處置を受けたる次第にて其の後非公式ながら何等疑點なしとの回答ありたる旨聞き及び居りまた保險會社よりも加數輝俊氏熙々出張され支拂を言明され近々諸手續き完了せんとする際突然の惡化生じたとすれば何か錯綜せる行違ひあるにあらずやと存ぜられ目下顧問辯護士の手に依り善後策考究中に之有保險に加入致し居り候故に兎や角死屍に鞭打つが如き汚名を被せられる事は遺族として堪え得ざるところにして如何にもして明證を立て故人の靈を慰め度存じ居り候

一々御手紙差上べき筈の處勝手ながら紙上を以て御返事申上げ併せて社會の臆測を解き度存じ候

昭和拾六年一月六日

遺族親戚一同

蚊帳は種々あります
◎大人用
△寢台向（高さ一米半）
◇獨身用　五十五錢
◇夫婦用　七十五錢
◇三人、四人入寢台用も御註文に應じて作ります。
丈夫な麻製寢台用蚊帳
◇日本式寢室向（丈一米半）
◇一人用　五十五錢
◇二人用　七十錢
◇三人用　八十五錢
◇四人用　一〇〇錢
以上一人增毎に十五錢增し
◎子供用　閉自在　一個　二八、〇〇〇
カーマ用（麻製）　二八錢
野外及び室内用　一枚　十七錢
時報商事部

海興銀行
CASA BANCARIA IMIGRATORIA LIMITADA
São Paulo - Registro - Pedro de Toledo
Lins — Araçatuba — Londrina

南米市場開拓の
わが商工業代表調査團
一先づ亞國へ直行・來伯は來月下旬

リオ來電によれば、昨年十一月廿一日神戸を出帆した商社もんてびでお丸は、來る十一日富士に入港するが、同社には國策の線に沿つて中南米の市場開拓の任を帶び、商工省より派遣された市場調査團一行六名が乘込んでゐる、一行は一先づ亞國へ直行し、來月十六日至聖ポルトアレグレ市着同下旬來聖し、約一週間滯在の上、リオ市に向ふ豫定である、尚一行の顚末は左の如くである

團長高吉友次郎　商工省貿易局技師）谷口三樹二郎（曾松商店常務取締役）中西佐七郎（日產化學工業株式會社主子工場製鹽課長）森川譽三（三菱商事機械部第一課長・多々良房吉（三井物產鐵鋼第二課長）金內武（高島屋外國部長）の諸氏

しほれ行く身の傷はしく
〝拳銃三發を浴び
六十の人生を清算〟
北愛州……綴つた邦人移民哀史

何れの移民地でも鬼角生活は無味乾燥となるは爭はれぬ事實である、大志望を抱いて肚逐母國を離れ異郷の地に全精全靈を傾け盡して奮鬪し不幸業半に倒れる人の數は少くない、野崎一人は果して斃志であつたかどうか詳かでないが、移民地で獨り淋しく死を自ら求めたことは何か同じく移民國にある在伯同胞に繼なしとしない……

これはあちらの話北米の愛州ポートレイキ市清口氏經營のホテルの一室で去月五日遺書と歌とを遺し自ら拳銃三發を浴びて六十の人生の幕を閉ぢた六十翁があるその遺書には年若つて身體思はしからず仕事する氣なし、何一つ樂しみなし、生きて苦しむよりみして極樂に行かれ永らく世話になりこれ只上感をかけるに忍びず（中略）お預けした三百兩で葬式がすれば幾お願ひします（中略）何卒火葬に願ひます死んでもご恩は忘れません

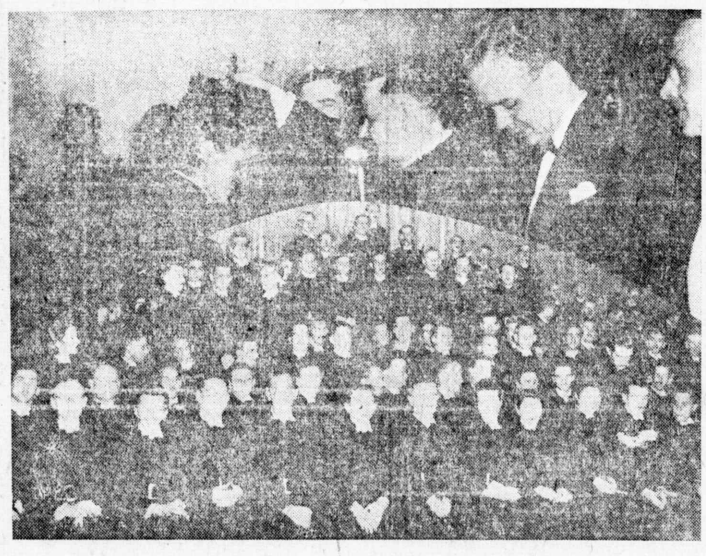
又遺歌は左の如きものである

凡ては我の愚なり、招ける錆とは言ひ乍ら、歳月人を待たずして、故郷を出て卅年、流れ行く日は夢のごと冷き風の吹くまゝに、しほれ行く身の傷はしく、はかなき餘命保つのみ遠き昔を偲びつゝ

世界移動寫眞展覽會
「春の部」近く聖市で公開

全國西寫眞聯盟主催の世界移動寫眞展覽會第一期「冬の部」は既に大阪商船ふらじる丸によつて各寄港地に於て催されたことは既報の如くであるが、ぶゑのすあいれす丸によつて第二期「春の部」全獨半折入約六十餘點が寫され、大阪商船聖市支店の手に依つて近く聖市で開催すべく目下サロン・アルメイダ・ジュニオール會場を交渉中である

この移動寫眞展は、獨く二千六百年と共に大飛躍を約束された新東亞が世界に誇る大自然の美、その獨特の文化、日に進む產業などあらゆる部門の常容を全世界に知らしめんとする企圖の下に全國西寫眞聯盟の主催によつて發足新東亞紹介「世界移動寫眞展」の作品を懸賞募集中であつたが、題材は日滿支の文化、自然風俗景觀など新東亞建設に邁進する二國の燦々しい姿を世界に紹介するに足るものとし「雪の冬」「花の春」「海國の夏」「紅葉の秋」



など東亞の四季を寫憶なく紹介し得る作品である

此の移動展はアルゼンチン、ブラジル、北米、アフリカ等の各大都市で開催し、觀光國策に寄與せんとするものであるが、大阪商船ではこの企劃に協賛して豪華船のギャラリーを會場に提供する外一等入選者には世界一周乘船券を與へ、二等以下にも夫々割期的な賞をかけてゐる

聖市法大卒業式
一昨夜市立劇場で擧行

聖市法科大學一九四〇年度卒業者に對する證書授與式は一昨日午後九時からアトロ・ムニシパールに於て嚴肅且盛大に擧行された、式はチレトール・ソアレス・ファリーア先生に依つて各々一人々々の頭上に榮冠を冠せられ十一時閉式した

聖市法科大學一九四〇年度卒業者に對する證書授與式は一昨日午後九時からアトロ・ムニシパールに於て嚴肅且盛大に擧行された、式はチレトール・ソアレス・ファリーア先生に依つて各々一人々々の頭上に榮冠を冠せられ十一時閉式した

因みに卒業生二百九名中邦人四名（平田進、高畠清芳貴定一、芳賀芳子の諸君）（男子二名四名に對し女子五名）である

一年に三万餘人殖へる聖市の人口

聖市當局一九三九年度の調査に依ると聖市人口は百三十二万二千六百四十三にして一粁平方當り稠密度は八百七十人となる、即ち同年度一年の出生數三万千七百七十五死亡數一万七千八百八十七結婚數一万三千八組となつてゐる、こゝに面白い事は出生の內父母共伯人のものが二万百二十人、父外國人母伯人が四千九百六十六人に出生數の內父母共伯人となつてゐる、又母系伯人母系と外國人父との出生數は伊國人の九百八人が第一位となつてゐる、次に日本人の出生統數を見ると父母共に日本人が四百六十五人、伯人母三十一人、スペイン人母二人、獨三人となつてゐる

社友入須賀氏もんて丸で歸

聖市グロリア街の〝大黑屋〟店主大須賀德次郎氏は夫人と共に、來る二月一日サントス着の〝もんてびでお丸〟で參勞聖里約間の算め一時歸國する事になつた

肝油　ハリバ　のみよい

雜記帳

◇昨年リオ市民の食べた魚類數は、なんと千八百四十八万八千九十五キロ、その金額二十七万千九百九十八コントス余に上つたと

◇農務省ではブラジル東北部荒廢地帶に散在してる廣大な貯水池に、約二百万尾の幼魚を放ち、養魚を奬勵する事になつた

◇聖市邦人テニス倶樂部では、來る廿五、六の兩日午前九時から第二回大會をサント・アマーロ・コートで開催する事になつた

會費は五ミル、申込は二十日まで、プラ振興藤、東棚根本、海興藤塚の三氏へ

◇日本病院福川事務長は今度カストロ・アルベス街五二〇番に移轉した

◇何時まで經つても止まぬ賭博行爲に對し、當局の取締りは益々嚴に、鞭撻を加へ、殊に邦人街には夜通し邦人が騷を光らせてゐる

◇日本人の生活に娛樂として切り離せない碁や將棋に至るまで當局では疑惑の眼を以て見てゐるといふから、この點何とか法を講ずればなるまい

◇年末の贈品に、新年のプレゼントに金子洋服店の博多ネクタイは飛ぶやうな賣行—最近は邦人間だけでなく、廣く外人間にも「博多でないものはネクタイにあらず」と紳士の間に大流行

◇バラ振文配人阿部喜門氏は今度チエテ移住地支配人となり、一日プラ振井久保參事官會の下に前文配人古關德藏氏との間に事務の引繼をした

◇リオ市シネランヂアのオデオンビル二階で、毎日午前九時より十一時まで、午後二時から六時まで希望者に日本語を敎へてゐる

◇聖市邦人テニス倶樂部では、來る廿五、六の兩日午前九時

棉の相場
ナンバクロ棉花取引所建値
一月七日

單位 十五キロ	賣値	買値
四級	四四、五〇〇	四四、〇〇〇
五級	四五、五〇〇	四四、五〇〇
六級	四五、〇〇〇	四五、〇〇〇

重要商品市況
一月七日

	賣値	買値
◎バタタ	六〇キロ	
アマレーラエスペシアール	四五、四六、	
◎スペリオール	五三	五六
◎マンヂオカ粉並	底三三	三五
アルフアフア		
キロ	三八〇	三九〇
◎小麥粉一級	四九	五〇
◎スペリオール	五四	五六
◎マンヂオカ粉並	底三三	三五
アルフアフア		
キロ	四二〇	四三〇
◎小麥粉一級	四九	五〇
◎砂糖 以下六〇キロ入		
極上 七一、	七二	
上等 六八、	六九	
◎プエジョン 六〇キロ		
△新ムラチンニョ		
スペリオール	六〇	六八
エスペシヤル	ノミナル	
△コーレス	六〇キロ	
プ・グラード	ノミナル	
シロシンニョ	ノミナル	
ユシビンニョ	ノミナル	
△ミリヨ	六〇キロ	
アマレリエヨ	二、九	三四
アマレロ	二、五	二五
アマレロン	二、五	二、六
△アロースアグリア		
アマレロン	四四	五五
エスペシアール	五七	六六
スペリオール	六六	六六
ポン		
ブランコ		
エスペシアール	四〇	七二
スペリオール	六六	六六
ポン		
レグラール	四四	五五
カテテ		
△エスペシアール	五七	五八
スペリオール	六〇	六六
ポン		
ノミナル		
△メイオ	三二	三八
△キレーラ	三〇	三〇
ポン		
レグラール	五三	五四
ノミナル		
△コーレス	六〇キロ	
プ・グラード	ノミナル	
シロシンニョ	ノミナル	
ユシビンニョ	ノミナル	
△ミリヨ	六〇キロ	
アマレリエヨ	二、九	三四
アマレロ	二、五	二五
アマレロン	二、五	二、六
△アロースアグリア		
アマレロン		
エスペシアール	五七	六六
スペリオール	六六	六六
ポン		
ブランコ		
エスペシアール	四〇	七二
スペリオール	六六	六六
ポン		
レグラール	四四	五五
カテテ		
△エスペシアール	五七	五八
スペリオール	六六	六六
ポン		
ノミナル		
△メイオ	三二	三八
△キレーラ	三〇	三〇

蔬菜市場
一月八日

トマテエスペシアル	七二	四四
プリメーロ	二九	三三
セグンド	八	八八
レポーリオ	三	三三
ビメントン	三	五
バージ	一〇	三八
エルピーリア	一〇	一〇
ポブリンニョ	一〇	一八
ベビーノ	一四	二八
人參	一〇	一二
バタタ	一〇〇	一二〇
コーベフロール	二	八
ナス	二	四
玉子	二〇〇	二〇〇

苦學生募集
市內配達に從事する者　二名
御希望の方は午前七時までに本社工場へ御來談下さい
時報社營業部

CINE S. FRANCISCO
Praça Floriano Peixoto, 226 - STO. AMARO
明日十日上映
日本の女性　技の競
東京の女性
ROMANCE de TOKIO
オトナ2$　コドモ1$

Dr. Miguel Dinizo
ブレシデンテ・ブルデンテ眼科專門
トトール・チ・ミゲール
トラホーム及び併發症手術
極眼　ルア・ゴーロ・ベサーニヤ街五五　電話二七六番
（ホテルムニシパルの側）
紫外線、小兒科專門
ドトール　クツペルチーノ
ソロカバナ線
ブ・ブルヂンテ市
ニーロ・ベサーニヤ街三十五番地
（片岡ホテル側）

内科、外科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科
ミゲエル・チニーゾ醫院
夜間、日曜でも急患者診療します
北パラナ、カンバラ市
電話　二六番

求職人
ラパドール　各二、三名
パッサドール
主急入用に嘱き御來談を乞ふ
ルア、アウグスタ一六二九
チンツラリーア・ムスメ
電話七—六一八五

募集
パッサドール　二二名
習　二二名
聖市モッカ區ルア、バロン
デ・ジャグアラ三五五
ムンジアール
電話三—六七二三

産婆
お產の事なら晝夜の別なく何時にても遠近を問はず往診致します
ジューリア・ゴドイ・ラーモス
住宅　聖市トーマス・デ・リーマ街二六五
事務所　二—六五二七
倉本せい子

CAFÉ ADELINO
カフエ・アデリノ
は常に日本人のよいフレグースを持つて居ります。
Praça João Mecenas, 135 antigo 7

CASA NIPPON
R. Domingos de Moraes, 1017
店員募集
伯國出生の青年　拾八歲より貳拾九歲まで　數名
希望の方は履歷書持參あれ
其他雜貨商　大村商店
陶磁器、玩具
電話　七—一六二六番

美術石版印刷
鹽谷寶
聖市タバサンダーラ街一二六番
郵廳　二五七四
電話三　三九八〇

聖市グローリヤ街三番
電話　二・六八四八
淺倉齒科醫院
R. da Gloria, 352 S. Paulo
(Largo do S. Paulo)

家庭教師招聘
土地、住宅在り
俸給其の他の條件は面談の上取極め度し
サンパウロ線マウアー驛
ガキツーバ
日本人驛長　植松
（驛前邦人バール、マウアーにて問ひ合せられたし）

移轉擴張御挨拶
謹んで新春を賀し奉ります
扨て弊館事業てより皆樣の御引立を蒙り、創業以來早くも七年の歲月を經て參りました御藝を以て家業は日增しに繁昌致し、常に滿足の狀態で到底皆樣の滿足に應え得ず甚だ遺憾に存じて居りました處、今回
コンデ・ド・ピニヤール街七八番
Rua Conde do Pinhal. 78（中矢商店通り）
に二十數室を含む閑靜な家屋を借り受け、新春早々此處に移轉致しました、申すまでもなく、日本人街の中心に位し、市內御見物、歸國、その他の諸手續、病院、醫師の御世話等に頗る便利に、加へて聖市の風景を一瞥に納める眺望は一層皆樣の御滿足に副ふ事と存じます
從前以上のサ・ビスを以て皆樣の御來館を御待ち致して居ります。何卒倍爲の御愛顧御引立の程伏して願上げます
先づは新春の御挨拶を兼ね移轉擴張の御披露申上げます
昭和十六年一月五日
九州旅館
館主　水本順太
聖市コンデ・ド・ピニヤール街七八
電話　二—七〇一二

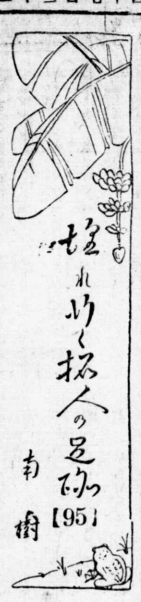
各位

尋人廣告
左記ノ者ノ現住所承知致度ニ付本人タハ御存知ノ向ハ至急當館迄御一報相煩ハシ
記
廣瀨賑
安田要助（着信）
吉田馬久（着信）
茨城縣新治郡中浜村
千葉縣君津郡環村大字高濱三十六番地
元住所　ソロカバナ線アンス驛
山口縣吉敷郡大歲村大字矢原五五八
藤田節雄
（讃州事件行冒鵬金ノ件）
廣島縣賀茂郡安芸村
坂井岩美
昭和十六年一月四日
在サンパウロ大日本帝國總領事館
C. NSULADO GERAL DO JAPão
C. Postal, 1167 - São Paulo - Brasil

來れり！
新牛・社職業紹介所
サンパウロ市コンセレイロ・フルタード街二七三　電話二—八九四三
Rua Cons. Furtado, No 273

大阪商船發着廣告
本月
パナマ經由
サントス着　一月十七日
アフリカ
アフリカ由
サントス發　一月七日
ゆふりか丸
神戸發　一月十七日
サントス着　三月七日
アフリカ
アフリカ由
サントス發　二月一日
ゆふりか丸
神戸發　三月十二日
サントス着　三月廿二日
パナマ經由
パナマ經由
サントス發　一月廿四日
南阿丸
横濱着　三月廿二日
アフリカ
アフリカ經由
サントス着　一月廿九日
あふりか丸
神戸發　一月廿九日
サントス着　一月十六日
パナマ經由
パナマ經由
サントス發　一月廿四日
南阿丸
横濱着　四月十四日
本月
パナマ經由
サントス着　一月十九日
もんてびでお丸
神戸發　一月廿一日
サントス着　一月十四日
パナマ經由
パナマ經由
サントス發　一月廿四日
南阿丸
神戸發　十二月廿日
サントス着　二月六日
アフリカ
アフリカ經由
サントス發　二月廿四日
はわい丸
神戸發　二月廿四日
サントス着　三月五日
西阿丸は一等船客のみ御引受可申候
詳細は弊社左記代理店、サントス　伯剌西爾大阪商船株式會社
(Soc. de Navegação Osaka do Brasil Ltda)
Rua Cidade de Toledo, 31 Santos
聖市伯剌西爾大阪商船會社出張所
(Soc. de Navegação Osaka do Brasil Ltda)
Filial de São Paulo
Rua Alvares Penteado 205 - São Paulo
新出張所　WILSON, SONS & CO. LTD.
Avenida Rio Branco 37 Rio de Janeiro
大阪商船株式會社

一代の怪雄山縣
石橋
—（三十四）—



が誤解され安い性であることは、少くとも彼を知る輩のもの、嘗て所である。藩は其の最も著だしい二つの例を知つて居るが、茲に其一つを紹介することにする。

石橋は農場內の只一つのレストランであるホテルに行つたが、もう夕方で、其處には副支配人の平野が來て居て、ジヤンタを待つて居た。しかし石橋は、平野に向つて挨拶をしなかつた。レストラ の主人である伊太利人は、ヴツタバラに來て、平野に挨拶しない樣な異色な顏の主は、日本人であるまいと考へ、

「君は支那人か？」

と、聞いた。石橋は何の遲疑する所なく、

「そうです、支那人です」

と答へた。平野は支那人だと云つた此の男は石橋但四郎で、妻君が補者を見に來て居ると云ふことを既に知つて居たので、妙な男だと思つた。

やがて、妻君の媒介者であるコロノが遣つて來たので彼は、何時迄も支那人の假面を被つて居る譯に行かず、石橋として平野に挨拶した。ジヤンタがすんでから、平野と石橋に色々な話をした。平野は余り牛馬のことなどに對し、深い智識を持つて居る譯でないが、一と通りのことは知つて居る。石橋は何と思つたか突然

「平野君、君位い牛馬のことを知つて居れば、マツトグロッソに行くと蛇度五百ミル位の月給にありつける」

と云つた。副支配人である平野に對し、何の挨拶もなしに支那人だと構へて居た態度が、既に氣に食はなかつた。それに何事ぞ、五百ミルの月給に有りつけるとは、人を馬鹿にして居ると癪に障つたが、御叮嚀に、

「そう云ふ場合はよろしく賴みます。」

と頭を下げた。所が石橋は御色々と、俺は政府のベテルナリオだと云ふ顏色を見せて平野を馬鹿にした樣なことをくり返す。平野は遂に勘忍袋の緒を切つて、くわつとなつた。

「石橋君、君は今直ちにこゝを出て行きなさい。」

と言つた。石橋は始めて狼狽し出し、

「君、君、誤解しては困る私はさう云ふ人間ではない。」

と、百陳辯したが、平野は頑として聞かず、じくじくと雨の降る夜の暗黑のなかを夜廻りしてゐる小貫と云ふ明大出身の青年にドナー・アルベルテーナ驛迄送り出され、遂に妻君候補者を見ることが出來なかつた。石橋の考へでは、別に平野を輕蔑した譯でも何でもなく、只さう思つたから云つた迄に過ぎないが、彼には一寸常識で理解されないかうした點がある。

石橋
は、千九百十六年四月、ウベラバで伯國人のノルマリスタと結婚し、女三人男一人の子供がある。何れも眞實正眼なブラジル人で、日本人たることを望まない。日本人はイングラトの國民であると信じ、彼を訪問する同胞があつても子供等は父たる石橋に取次ぐに、決して

「パトリオツトが來た」

とは云はない。

「日本人が來た」

と云ふ。どう云ふ譯でさう云ふ風になつたかと云ふに、彼れ石橋の世話になつた多くの日本人が、一人として恩義に報ゆるものなく、反對に彼に弓を引くものが多かつた爲めであると云ふ。

かう
した家庭の空氣のなかにあつて人一倍の日本主義者であり、山縣の信念を繼承して居ると云ふ石橋が、只ソツバのなかに一トッ起の味噌を落してもらつて、僅に日本趣味を味はつて居ると云ふことである。茲に至つて、彼も父一種の變り者であり、聖廳中の人物である。

Redação - Rua Ragundes, 196
Telephone 7-4670
Caixa Postal, 8
Director M. Samesima

NOTICIAS DO BRASIL

Proprietario SEISAKU KUROISHI

Assignatura Anno.... 60$000
" Semestre... 30$000
Numero de dia.... 300 reis
Gerente S. Furoishi
Redactor-chefe M. Yendo

ANNO XXIV — S. PAULO — QUINTA FEIRA 9 de JANEIRO de 1941 — DIARIO No 2374

O "OURO BRANCO" NO BRASIL

Quando o Brasil, sobretudo a partir de 1938, decidiu imprimir á sua economia aspectos marcadamente polycultores, destarte subtrahindo-se ao cyclo da monocultura caféeira, entre os productos que desde então passaram a pesar em nossa exportação figurou em lugar de legitimo destaque o algodão.

Não fôra, com effeito, a expansão dessa cultura, e, depois da crise economica mundial, teriamos assistido á contracção violenta do valor-ouro de nossas vendas ao estrangeiro. Foi tambem a sua valiosa contribuição ao nosso potencial de resistencia economica que nos possibilitou a mantença em nivel relativamente alto, de nossas importações de artigos manufacturados e de varias materias primas, de origem exotica.

Mas, se logramos imprimir ao «ouro branco» a transcendencia actual, a ponto de occupar elle o segundo posto entre os nossos grandes productos de exportação, manda a verdade digamos que pensamos especialmente em sua remessa para o exterior. O Brasil não cresceu algodoeiramente, tendo em vista apenas o seu auto-abastecimento dessa materia prima, não obstante o surto louvavel de nossa industria textil. O que objectivamos, e continuamos a objectivar, é a sua remessa em quantidades sempre cada vez maiores para os centros de absorpção, não brasileiros.

Quem com effeito, se dér á incumbencia de manusear as nossas fontes estatisticas verá que, nos ultimos cinco annos, o crescendo de nossa exportação de algodão era um facto innegavel. Haviamos nos consolidado na Europa, conquistado mercados importantes como os do Japão e da China, iniciado a nossa exportação para a America do Norte e mesmo para certos povos de nosso proprio Continente. O que, todavia, é innegavel é que os mercados europeus representaram pelo menos até 1939, o centro de escoamento numero um á nossa producção vendavel.

A irrupção e o advento do conflicto europeu marcaram, porém, o primeiro recuo na exportação ascencional dessa fibra. Quando mais necessitavamos do concurso do Velho Mundo á collocação de nossas safras, em processo de augmento ininterrupto, a Europa cerrou-se em grande parte ás nossas vendas, em virtude do impacto da continuação da pugna actualmente em curso.

Pode-se ter uma idéa do effeito da guerra sobre o rythomo de nossas vendas de «ouro branco», passando-se em revista o quadro abaixo, em que figura o total de nossas vendas, de Janeiro a Outubro de 1939 e de 1940, segundo os Continentes:

	1939	1940
	(Toneladas)	
America do Norte	1.894	15.753
America do Sul	333	823
Asia	123.925	91.535
Europa	182,126	65.552

A Europa, que, no anno passado, se collocava em situação de primazia, no tocante ás nossas remessas algodoeiras recuou para segundo plano, depois da Asia. Mas, diminuiram tambem as nossas vendas á Asia, augmentando, porém, se bem que de maneira pouco expressiva ainda, as nossas exportações para a America do Norte e a do Sul.

Sem a garantia de uma forte importação, quer pela Europa, quer pela Asia, difficilmente o «ouro branco» brasileiro conseguirá manter-se em nivel alto de exportação. E como as perspectivas politicas, quer na Europa, quer na Asia, particularmente no Japão e na China, estão longe de ser animadoras, comprehende-se e justifica-se a cautela com que devemos encarar o futuro immediato de nossa exportação algodoeira.

Sem duvida enfileiramo-nos no rol dos que pensam que um producto, como o algodão, susceptivel de longa armazenagem, sem perda de seus caracteristicos commerciaes, póde enfrentar periodos de séria perturbação economica. As necessidades humanas, com relação a essa fibra, e sem embargo dos novos productos syntheticos, ao invés de diminuirem, quando cessar a guerra em andamento, tenderão a subir. E a producção mesma dos paizes que agora se dedicam á exploração dessa malvacea talvez se mostre amanhã aquem das necessidades immediatas do consumo.

Por isso mesmo, acreditamos que o Brasil está na obrigação de proseguir em sua actual politica de fomento á cultura do «ouro branco». As difficuldades que agora nos assaltam não são apenas nossas, porque peculiares a todos os povos que se representam, no plano do commercio internacional, por intermedio de materias primas de grande valor economico. Se soubermos esperar, não o porvir immediato, mas o mediato, haveremos de chegar á evidencia de que andamos realmente no bom caminho, quando deliberamos fazer dessa lavoura uma de nossas maiores fontes de subsistencia economica.

A cellulose no Brasil

ENTRE os productos que se tornaram indispensaveis na vida moderna, conta-se a cellulose. Variadas são as suas applicações, mas visemos especialmente esta materia prima para o fabrico do papel.

O subito francamento de mercados productores veiu crear uma situação estranha, pela qual se chegou a temer. Felizmente, a industria «yankee» e a canadense vieram attenuar essa gravidade, supprindo rapidamente deficiencias.

A este proposito é opportuno assignar que, pela primeira vez em 30 annos, os Estados Unidos conseguiram igualar producção e consumo, na industria da pôlpa. E essa industria baterá um «record» este anno com uma producção que attingirá nove milhões de toneladas contra sete milhões no anno de 1939. Interessante annotar tambem é que os Estados Unidos ainda ao anno passado eram o importador numero um de pôlpa de madeira, com uma importação de dois milhões de toneladas. Este anno já conseguiram collocar-se em segundo logar, não como importadores, mas como exportadores, logo após o Canadá. Outra cifra interessante é que em 1940 os Estados Unidos deverão exportar um total de 400 mil toneladas de pôlpa, especialmente para o Reino Unido, Republicas latino-americanas e Japão. No anno passado essa exportação, que já se accentuava, limitou-se a 140 000 toneladas.

Os industriaes norte-americanos não se esquecem de que esta maré de prosperidade obtida por mercados livres de concorrencia e por uma alta apreciavel de preços, poderá soffrer um embate, quando se restabelecer a normalidade economica do Mundo. Aliás, já este anno sentiram certa preoccupação em face de uma offensiva de preços baixos. Mas esse perigo foi adiado. E a industria continuou aproveitando esta phase excepcional de prosperidade.

Porque se trata de uma industria essencial, sob multiplos aspectos, qualquer paiz que reuna condições de viabilidade da sua installação não poderá deixar de fazel-o. E' o que succede com o Brasil. Apresentam-se condições favoraveis para a sua creação. Estas condições poderiam ser, toda via o resultado de uma emergencia. Mas, no caso do Brasil, não é propriamente isso o que acontece. Existem elementos e factores que permittem a estabilidade e o progresso desta industria, mesmo que as condições actuaes se modifiquem. Se é bem certo que não se póde imaginar qual será a futura economia que regerá o Mundo, não é menos certo que essa eventualidade não podéra sacrificar uma industria brasileira que conta com bases seguras.

Patriotica e opportuna é, portanto a resolução do Presidente Vargas lançando o plano de installação da industria de cellulose no Brasil. Pelo que já se conhece das bases em que essa industria será organizada, é permittido acreditar no seu exito. Tanto para a segurança nacional como para o desenvolvimento cultural do Paiz, essa industria entra na categoria das essenciaes. Ella constitue o «beckground» do progresso e tambem da defesa da Nação.

AS CIDADES MAIS HABITADAS

de um milhão de habitantes, cada uma delas. Juntas, tais cidades comprehendem um total de 93 milhões de almas ou seja isto a cifra de 4,3% da população do nosso planeta.

A distribuição dessas cidades assim está estudada. 15 encontram-se na Europa; 11 na Asia; 10 na America; 2 na Australia, e 1 na Africa.

O numero de cidades com mais de 100 mil habitantes é de setecentos. Nestas, residem 250 milhões de pessoas sendo que a maioria está situada na Europa.

A Alemanha possue 77 cidades com mais de 100 mil habitantes e elas espalham-se por tôda a nação, havendo quatro no Protetorado da Moravia e quatro no govêrno geral da Polônia.

Na zona européa da Russia, existem 65 cidades com uma população superior a cem mil habitantes cada uma delas. Na Inglaterra e na Irlanda do Norte, são 58. Na India, 24. Na França, 17 e na Espanha, 2.

Nos Estados Unidos, há 92 grandes cidades. Na China, 50. No Japão e nas Indias Britânicas, 38 em cada qual. No Brasil, 19.

A oitava parte dos habitantes do mundo está radicada nas grandes cidades. Nos Estados Unidos, 38 milhões de pessoas vivem nas grandes cidades. Na Russia, são 29 milhões. Na Alemanha, são 26 milhões. No Japão, são 22 milhões e na Inglaterra e na Irlanda do Norte, são 28 milhões.

Da Independência ao Estado Novo

(14)

Não nos cabe escrever a crónica da revolução paulista. Procuramos apenas fazer ressaltar o seu sentido. Não faltava entre os seus proprios adeptos quem não temesse pelas suas consequências. A Nação, ainda combalida pelo choque de 1930, corria o risco de ver abrir-se na sua alormentada história nova fase de inquietações e de lutas internas. Desviada, de bom ou mau grado, da sua ideologia constitucional, a revolução paulista viu reavivar antigos ressentimentos entre regiões e Estado do Brasil, que o Presidente Getulio Vargas procurava patrioticamente apagar pela sua politica de tolerância, de bondade e de esquecimento.

Vencedor, o Presidente Getulio Vargas mostou a sua incapacidade de cultivar ódios. Tratando os vencidos, onde se confundiam adversários e correligionários de 1930, com a maior generosidade, só teve depois da vitoria um pensamento: precipitar o retôrno ao regime constitucional, que fôra o pretexto da curta guerra civil. No seu claro senso de brasileiro, comprendia a situação moral de São Paulo, duas vezes vencido na luta. Fazer os paulistas esquecerem os dissidios passados, entregar-lhes diretamente o govêrno do Estado, eis igualmente o rumo seguido pelo chefe do Govêrno Federal.

Mas para fazer eleições era necessário preliminarmente preparar um aparelho especial de justiça. Os antigos processos de alistamento de eleições e de reconhecimentos de poderes eram oportunidades, até 1930, as maiores fraudes e compressões oficiais, tendo sido, no julgamento geral, uma das grandes causas imediatas da Revolução. Entregando o Ministério da Justiça a um politico do Rio Grande do Sul, empenhado na campanha da Constitucionalização, o Presidente Getulio Vargas decretava dentro de breve tempo o Código Eleitoral, lei que pode ficar como modelar na espécie. O Código implicava a criação de uma justiça especial para os pleitos eleitorais, com as garantias de que gozava o Poder Judiciário comum. Elaborado o Código e organizada a Justiça especial, o Brasil foi convocado aos comicios eleitorais. Em Novembro de 1933 reunia-se na Capital da Republica a Assembléia Nacional Constituinte. A' semelhança da União, constitucionalizavam-se os Estados e formavam-se as Câmaras municipais. O Brasil, como já dissemos, conhecia pela primeira vez as livres eleições que o regime liberal promete e permite e nas quais êle punha, desde a sua vida de nação independente, as melhores esperanças de regeneração civica.

Analisámos também, em outro capitulo, o que foi, em resumo, a obra Assembléia Constituinte. O voto obrigatório, acrecido pelo voto feminino, avolumara a massa eleitoral do país. A campanha dos candidatos adquiriu um estilo novo de publicidade. Em conjunto, a Assembleia Constituinte traduzia bem as confusas aspirações da Revolução, que ainda não encontrara o próprio sentido construtivo. Constituiam pequena minoria os homens vindos da primeira Republica, que poderiam trazer, assim, á Assembléia, a sua experiencia parlamentar. A maior parte dos deputados que iam dar ao Brasil a Constituição de 1934 era composta de homens novos, sem treino politico. Notamos alhures como a Constituição de 1934 refletiu a desorientação geral das idéias.

O Presidente Getulio Vargas, tendo apresentado á Assembléia o ante-projéto de Constituição que mandara elaborar por uma comissão especial, absteve-se de intervir na sua vida interna. Escolhendo livremente o seu Presidente, o seu «leader» e as suas comissões, a Assembléia orientou-se por própria conta, certa das garantias que ao seu pacifico funcionamento oferecia o Govêrno. Dos seus erros, como dos seus acertos, isentou-se, pois, o Chefe da Nação, empenhado em que se levasse ao têrmo final a nova esperiencia liberalizante do Brasil. A alta inteligência politica e o profundo conhecimento das coisas e dos homens brasileiros do sr. Getulio Vargas não lhe deveriam permitir ilusões sobre a sequência dos acontecimentos. Mais cedo ou mais tarde, a nação apelaria para o seu patriotismo, afim de que se lhe assegurasse, por meio de um govêrno de autoridade, as condições de paz e de ordem essenciais ao trabalho produtivo. No momento, a principal missão do Chefe do Govêrno consistia em vencer os obstaculos que se ofereciam por tôda parte á marcha normal do país, dominando os surtos de rebelião e procurando extinguir por tôda parte os fomentos de desordem.

O RESTABELECIMENTO DO ANTIGO REGIME

A) — A CONSTITUIÇÃO DE 1934

A Constituição republicana de 1891, conforme vimos em capitulo anterior, além de obedecer á lógica inspiração doutrinária, traduzindo o máximo das aspirações do liberalismo dominante em sua época, teve como imediato modêlo a Constituição dos Estados Unidos. Ao contrário a de 1934 não se prendia a um claro sistema de idéias. Nela confluiam várias correntes de pensamentos, ainda não amadurecidos. O curto periodo de tempo do regime de poderes discricionários não só impedira que o Govêrno Provisório firmasse a obra iniciada de reorganização politica e administrativa, como não permitira que se preparasse cuidadosamente a opinião publica para o retôrno á vida constituicional. A extrema efervescência politica, que fazia multiplicar em todos os Estados os partidos e agrupamentos partidários, sem bases e sem conteúdo, incertos sôbre as próprias finalidades, naturalmente, a conquista e a manutenção do poder, teria de resultar na espécie de precario compromisso que foi a Constituição de 1934.

肥し豆にも注意
たぬきまめは毒物
雞と豚には命取り

果樹その他永年作物が生産期に入るまでの期間、廣い株間の除草の手間を省略すると同時に、表土の流亡を防ぎ作物を保護する緑肥作物中最適と稱せられ、最近廣く植えてゐる「たぬきまめ」は家畜に採つて恐るべき毒草である、この點充分の注意を拂はないと慘憺を招かないとも限らないから農家のため報告する

たぬきまめ（但人はクロタリアと稱する）と一般に言つてゐるが品種は大分澤山あるが何れも旺盛な生育を為し、短期間に一米突内外に成長し、黄色の花を一杯つけ、これが赤莢となり次々に熟して放任して置いても順々に成育し一切他の雑草を壓倒する、然も旺盛なる生育を為し、短期間に種